

デング感染症ウイルス血清型の簡易早期判定技術の有効性検証調査報告書(抜粋)

1. 調査団構成 団長 横山憲二, 専門家 瀬島俊介, 専門家 宮崎功
2. 調査期間 平成 23 年 2 月 13 日離日から同年 3 月 13 日帰国まで
横山, 瀬島は上記期間中従事、宮崎はうち 2 月 20 日から 3 月 6 日までのみ従事
3. 業務記録 調査期間中の調査団員業務記録(業務内容と訪問, 滞在先)は表 1 の通り。
同業務配置と行程は、
 - 1) 2 月 14 日～20 日は、横山, 瀬島の 2 名がハノイで業務、宮崎が 20 日来越, 合流しフエに同夜移動。
 - 2) 2 月 21 日～3 月 2 日は、3 名でフエにて業務。2 日夜にハノイへ移動。
 - 3) 3 月 3 日～5 日は、ハノイで予定より早く後半業務開始。5 日夜に宮崎帰国。
 - 4) 3 月 6 日～12 日は、再び横山, 瀬島の 2 名がハノイで業務。13 日未明離越。
4. 各期間の業務内容
 - 1) 本調査の内容が、ベトナムでの医療, 保健, 衛生分野の国際協力事業の核心部に密接に関連するため、日本側, 現地側の政府組織及び国際機関と事前に打ち合わせた。
 - 2) フエではフエ大学が中心となり BMSA からの委託業務を受託。同大学資源, 環境, 生物研究所(Institute of Resources, Environment and Biotechnology (IREB)) タン所長と契約締結した。



IREB タン所長と契約締結



IREB 本部 IREB 幹部と調査団

- 3) ハノイでは国立感染症研究所(National Institute of Health and Epidemiology (NIHE))を訪問。
マイ部長と今後相互協力する方向で合意した。

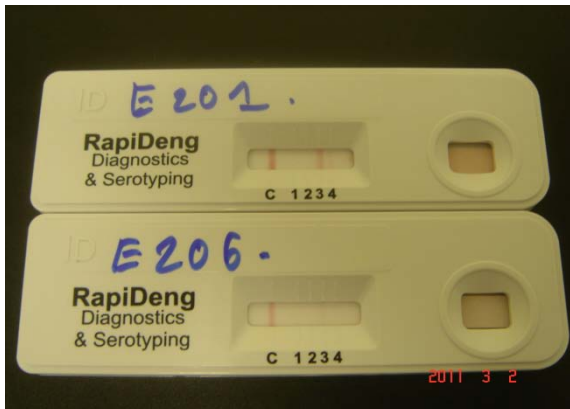


NIHE 前景



NHTD 前景

- 4) ハノイの国立熱帯病研究所(National Institute of Tropical Disease (NITD))を横山, 瀬島で訪問し、診断, 分析設備等を見学。キン所長に今後の協力につき同意頂いた。
- 5) 保健省(Ministry of Health(MOH))国際協力局スオン副局長, 医療局幹部と本調査結果につき意見交換を行い、今後の協力につき同意頂いた。



簡易早期判定キットによる陽性例



MOH 前景

5. 結果

本調査の課題は以下の項目であった。

- A. 本キットの臨床現場での有効性検証
- B. 現地従事者のスキルレベルと本技術内容との適合性評価
- C. 本技術の社会経済面での評価
- D. 規模拡大に必要な要素抽出

現地での業務を通じて、全体として当初掲げた A-D の各項目全てにつき、第 1 段階の小規模調査としては十分な成果をあげた。例として A のデング感染陽性事例を上記に示す。

更に今回の結果を基に現地の MOH, NITD, NIHE 等保健医療の中核部門と今後の展開向け提携協力関係の基礎を築けた事は特筆に値すると思われる。

以上